

## 令和3年度第1回高知県子どもの環境づくり推進委員会 会議の概要

### 1 日程及び議題

日時：令和3年5月29日（土） 14:00～15:30

場所：高知県庁本庁舎2階 第二応接室

議題：（1）子どもの環境づくり推進計画に基づく県の取組について

（2）子ども条例フォーラムについて

- ・昨年度の実施報告について
- ・今年度の開催内容について

### 2 会議の概要（委員からの主な意見）

事務局説明：（1）子どもの環境づくり推進計画に基づく県の取組について  
資 料：【資料1】～【資料2】

#### ●事務局から「高知県子ども条例」及び「子どもの環境づくり推進計画」の概要を説明

#### <No.142 情報モラル教育実践ハンドブック（改訂）>

○家にいる時間が子供も大人も増えているので、インターネットのモラルに対して、よりいろいろなことに取り組んでいく、強化をすることはとても良いと思う。（委員）

○情報モラル教育というのは確かに大事だと思うが、限界があると思う。私の周囲にもスマホを1日1時間以上、多い人は3時間使用する友達もいる。スマホ以外にも面白いことがあるということを学生たちに周知したら良いと思う。（委員）

○このような活動も大事だが、学校に行って直接話すことで、スマホについても意識が変わると思う。もっと直接啓発を行う活動を活発にやった方が良いと思う。（委員）

⇒高知工科大学の学生の話聞きながら進めるとのことなので、そこに高校生のメンバーとして委員のどなたかに入っただけとか、募集を学校にかけるとか、いろいろな声の拾い方はあるかと思う。これから今年度末に向けて検討するとのことなので、ご意見を担当課に伝える。（事務局）

#### <No.73 運動部活動指導員派遣事業>

○文化部に所属しているが、文化部への支援の場はあるか。なければ文化部への支援もしてもらいたい。（委員）

○部活動には、本当に専門性を持った顧問が当たれることは少ないので、教員の働き方の観点からも、支援があればありがたい。（委員）

○部活動には専門性があるため、派遣事業はありがたいが、県体の前に派遣を行ってほしかった。また、文化部も専門性があるが、正教員を顧問として配置できないような状態になっているので、専門性をもって見てもらいたいという思いもあると思う。(委員)

#### <No.194 スマイルふれんど派遣研究事業>

○NPO法人で活動しており、不登校の方や引き籠もってしまった子供たちと一緒に触れ合う機会もこれからあると思うので、この事業が廃止になり、とても残念だと思う。(委員)

#### <新型コロナウイルス感染症について>

○新型コロナウイルス感染症の関係で学校名が出て、誹謗中傷などが個々の学生に向かっていくということに対して、私たち大人はどうやって子供たちを守ったらいいのかということを考えている。弱い者へ弱い者へというところがあり、学生も本当にしんどいと思う。(委員)

○子供が本当に厳しい状況に置かれざるを得なくなっているという状態であり、この会の一つの使命としてはきちんと考え、県でも呼び掛けをしてもらいたい。記録に残してもらい、この会の意見として上げさせていただければと思う。(委員)

⇒新型コロナウイルス感染症に関しては、毎日記者発表という形で必ず誹謗中傷についてはしないよということなので、資料を出してはいるが、会見の場でもしっかりその都度メッセージを発してもらえるように担当課に伝える。(事務局)

○保護者の発想は逆で、学校名を公表してほしいという考え方もある。例えば学習塾などでその学校の生徒と関わっていた時に、自分が端を発する立場になりたくないからぜひ公表してほしいという考え方もある。自己防衛のレベルを上げていくことによって、お互いが職場へ、学校へ、家庭へ持ち込まないということができるのも一つの策じゃないかと思う。学校名を公表した生徒に対する誹謗中傷は、当然あってはならないことであり、社会教育として取り組んでいくべきだと思う。(委員)

○運動部活動の大会に関して、新型コロナウイルス感染症の感染者が出た後に保護者が安心できるガイドラインというものがない。各競技団体が掘り下げた中で、ここまで対策していれば開催者、主催者側の責任ではないというようなガイドラインが欲しい。(委員)

#### <ヤングケアラーについて>

○県としてヤングケアラーの現状の把握やそれに向けた事業、施策をどのように行っていく心積もりかについて聞かせてほしい。(委員)

⇒現状や事業、予算については確認して回答する。(事務局)

事務局説明：(2) 子ども条例フォーラムについて 資 料：【資料3】～【資料4】
---

●事務局から「子ども条例フォーラム」の昨年度の実施報告について説明

<昨年度の実施報告について>

○自分の意見では見えない部分や、相手がいたからこそ分かる・気付くことがあった。ディスカッション、発表の時間は少し短いと感じ、もっと伝えたいことがあるのに時間制限があつて話せなかったもので、検討してもらいたい。(委員)

○高校では初対面の人と話すのはなかなかない機会なので、この機会を通じてコミュニケーション能力をつけることができると思った。(委員)

○フェイスシールドにマスクで、初対面でお互いの顔も分かりにくく、声も籠もるということで、最初はぎこちない空気がどのグループも流れていた。参加した学生がもう少し時間が欲しかったというのは、やっと慣れてきて活発になって、もう少し深めたいという気持ちがあつたのかと思う。ファシリテーターの方々は、グループを盛り上げるため努力されていたように思う。生徒同士の距離やお弁当がないなど、普段とは違い、少しかわいそうだったが、高校生が学校を越えて話をしている姿を見て、本当にうれしいと思った。(委員)

●事務局から「子ども条例フォーラム」の今年度の開催内容について説明

<開催の可否について>

○学生がこのような場で経験することが次へつながっていくと思う。その人たちが学校で話すことによってその周囲の人や子供たち、学生が変わってきている。そういうことを考えると、ぜひ続けていってほしい。(委員)

⇒コロナウイルス感染症対策をしっかりとした上で開催することを前提として議論を進める。

<開催について>

⇒ウェブ開催については、学校側の負担が大きくなることや参加者が限定されることなどから対面方式での開催とする。

#### <参加人数について>

⇒会場の収容人数にもよるが、例年どおり 40 人とする。

#### <ディスカッションテーマについて>

○ディスカッションテーマと講演内容は紐付けをしてほしい。紐付けすることにより内容が弾んだり進んだりということもあると思う。(委員)

○プラス要素とマイナス要素の両方の意見を出せるような課題的なテーマを作ってもらいたい。頭も使うことができると思う。(委員)

#### 「将来の夢・未来の私」

○「将来の夢・未来の私」はテーマに入れてほしい。若い学生にはとても大事なことだと思うので、毎年テーマに入れることが必要だと思う。(委員)

○最初に将来の夢を言って、次にどういう職業なのかとか、どうしてそのように思ったのかななどを聞くことで自分の将来の夢も変わるし、考え方も変わるので良いテーマだと思う。(委員)

○高校生が将来の夢をなかなか言わないという印象があるのは、身近な大人だからこそ言えないというのがあると思う。フォーラムで会う人たちは良い意味で初対面で一回限りの関係なので、開き直って言えるというのもあると思うので、続けるべきテーマだと思う。(委員)

#### 「新型コロナウイルス感染症の感染者への誹謗中傷について」

○新型コロナウイルス感染症に感染した学生やその学校への批判はおかしな話であり、どのように支援し、非難せずに見守っていくかということに関係者を通して話していただきたい。(委員)

#### 「いじめについて」

○いじめについて、コロナのことで悩んでる子や、いじめに近いことをされている子がいないわけではないと思うので、様々な学生の意見を聞きたい。(委員)

#### 「高知県の活性化について」

○新型コロナウイルス感染症によって東京から地方に引っ越ししたり、大手の会社が本社を移転させたりというので、地方に注目が今集まっている。その中で自分たちが今高知で、地方で住むということ

の価値に視点を当てたテーマで話し合いたい。(委員)

### 「選挙について」

○学生たちは「高知県を発展させたい、活性化したい、元気にしたい」といろいろと考えていると思うが、私たちがそういうことを一番反映しやすいのは選挙だと思う。高知県の選挙の投票率は多分全世代含めても半分以下で、特に低いのが学生。18歳以上にも選挙権を与えられていて、高知県のことについていろいろ考えているにもかかわらず選挙に行かない。選挙に行かないのはなぜかということと、選挙の投票率を上げるために私たちがすべきことは何かということ話し合うべきだと思う。(委員)

⇒例年どおりディスカッションテーマは4つとし、「将来の夢・未来の私」は決定とする。残り3つのテーマについては、委員から提案のあった「新型コロナウイルス感染症の感染者への誹謗中傷について」、「いじめについて」、「高知県の活性化について」、「選挙について」の4つのテーマと、前回の委員会でテーマ設定の意見があった「自転車ヘルメット着用推進事業」、事務局から提案した「依存症(ギャンブル・スマホなど)について」のあわせて6つのテーマから事務局と委託業者でテーマを検討することとする。